



2018 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (2018 SUPER FORMULA) 第 7 戦: 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市) レース報告書

予選: 10 月 27 日 (土)

天候	晴れ
観客動員数	13,000 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 8 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 16 位

決勝: 10 月 28 日 (日)

天候	晴れ
観客動員数	23,000 人
成績	ナレイン・カーティケヤン 選手 (#64): 17 位 伊沢 拓也 選手 (#65): 16 位

<予選レポート>

今シーズンの最終戦を迎えた SUPER FORMULA。今大会は例年とは異なり 1 レース制で行われます。2014 年から 5 シーズンに渡り使用されてきた共通シャシー「SF14」によるラストレースとなることもあり、熟成されたマシンで今シーズンの締めくくりにふさわしいレースが期待されます。

前夜の雨の影響でウェットコンディションでのフリー走行となりますが、午後になると青空が広がり、コースコンディションも回復し、ドライコンディションでの公式予選が開始します。

まずは Q1。TCS NAKAJIMA RACING の 2 台はコースインし、タイムアタックの準備に入ります。しかし、セッション開始から 6 分が経過した頃、コース上でアクシデント車両が発生し、赤旗が掲示されます。

TCS NAKAJIMA RACING の 2 台は一旦ピットに戻って待機し、Q1 セッションが再開したところでコースインし、再度タイムアタックに挑みます。その後、ピットでタイヤを交換し、最後のアタックに臨み、ナレイン・カーティケヤン選手 (64 号車) は 2 番手のタイムで Q2 に進出、伊沢拓也選手 (65 号車) は 16 番手となり Q3 で敗退となります。

Q2 は 7 分間で争われます。ピットで少し待機したのち各チームがアタックに向かいます。カーティケヤン選手は計測 2 周目で Q1 のタイムを更新する 1 分 38 秒 570 をマークし、このタイムが 8 番手となり、見事 Q2 を突破。今シーズン 2 度目の Q3 進出を果たします。

Q3 は残り時間が 4 分を切ったタイミングでコースイン。カーティケヤン選手は果敢にアタックを試みるものの 1 コーナーでオーバーランしタイムロス、そのままピットに戻り、決勝レースは 8 番グリッドで確定しました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「カーティケヤンには Q3 のアタックでミスがありましたが、いい予選結果だったと思います。伊沢も僅か差で残念ながら...というところでしたが、明日は 2 台揃って1つでも上位でチェッカーを受けて、いい形で今シーズンを締めくりたいです」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

“Our car was really good and especially the balance on medium tire was fantastic. We went through to Q3 and we tried our best on soft tire. Unfortunately, the time was not good enough. We can scope on from here and will try into good race. Thank you.”

「車両はとても良い状態でした、特にミディアムタイヤのバランスは特筆すべきものがあります。Q3 へ進出しソフトタイヤでベストを尽くしましたが、ミスもあり良いタイムを出せませんでした。明日はいいレースができるよう巻き返します。ご声援をよろしくお願ひします」

伊沢 拓也 選手:

「昨日の走り始めからスピードが足りず、Q1 で敗退となってしまいました。開幕戦のようにうまくいかなかったので非常に残念ですが、明日はなんとか挽回したいです」

<決勝レポート>

さわやかな秋晴れとなった決勝日。気温 21°C、路面温度 23°C のコンディションの中、14 時 15 分に 43 週の決勝レースがスタートを切ります。8 番グリッドからソフトタイヤでスタートしたカーティケヤン選手はオープニングラップで一気に 2 つポジションを上げます。

6 番手を走行していた 14 周目でピットインを行い、ミディアムタイヤに交換しコースに戻ります。その後も安定したペースで走行し、順調に見えていましたが、ピットインの際、ピットロードで速度超過したことでドライブスルーペナルティ*を受け、大きく順位を落としてしまいます。その後も最後まで懸命の走りを見せますが、ペナルティが影響し、17 位でフィニッシュとなりました。

一方、16 番グリッドからスタートした伊沢選手は、スタートで 15 番手に、さらに 8 周目までに 13 番手にアップ、ソフトタイヤを装着し、順調に周回を重ねていきます。その頃、ピットストップを行うマシンが現れたことで、10 周目では 12 番手を走行します。

ピットインをするマシンが続き、15 周を過ぎるとポジションをさらに上げ 8 番手で走行していきます。その後、後続のマシンとの激しい競り合いで接触があり、10 番手に後退するものの、ひたすらプッシュを続け周回していきます。19 周目でピットインを行い、ミディアムタイヤに交換し、追い上げを図りたいところでしたが、ペースを上げられず、逆にポジションを大きく落としてしまいます。レース終盤でアクシデントにより離脱したマシンが現れたこともあり、最終的に 16 位でチェッカーを受けました。

*ドライブスルーペナルティ(ピットスルーペナルティ):速度制限に従ってピットレーンを通り、停止することなくレースに合流することが義務付ける罰則。レース中で最も多いペナルティ。このペナルティによるタイムロス、ピットレーンの長さに依存するためサーキットにより異なるが、約 20~30 秒程度のタイムロスになる。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「カーティケヤンについては序盤のいい流れがペナルティを受けたことで途切れる形になり、残念な結果になってしまいました。伊沢も作戦を変え、なんとか有終の美を飾りたいと意気込んでいましたが、思うようにはいかず苦しいレースになりました。来季は新シャシーも導入されますので、心機一転、チーム一丸となって頑張っていきます。今シーズンもたくさんのご声援をありがとうございました」

ナレイン・カーティケヤン 選手:

"I had a very good start and managed to pass two cars on the 1st lap. We had strong pace on the soft tire compound when running on the 6th position, but had to react on our competitors pitting early and change the strategy. Unfortunately, we had to serve a drive thru penalty for pit lane speeding after our pit stop, which dropped us back to the 18th position. The pace on the medium compound tire was not good as I expected - We suffered from understeer for most of the race. Looking back on this season, myself and Izawa made a big step forward with the team in terms of competitiveness. We both qualified in the top 5 a couple of times. I hope we can keep the momentum and continue working in this direction for the season 2019."

「うまくスタートを切り2つポジションを上げることに成功しました。ソフトタイヤで順調にペースを上げ、6番手を追走していましたが、他チームに対応して予定より早くピットインをしました。残念ながらピットレーンでのスピード違反で18番手までポジションを下げてしまいました。また、ミディアムタイヤに換えてからはアンダーステアに悩まされるなど期待したパフォーマンスが発揮できませんでした。来季は伊沢選手と共に上位争い加われるよう、今シーズンの結果をしっかり振り返ります。今季は私も伊沢選手も幾度かトップ5で予選を走ることができたので、来季は更に前進できるよう頑張ります」

伊沢 拓也 選手:

「挽回できるよう作戦を考えてトライしましたが、昨日からスピードを見つけることができず、今日のレースでもポジションを上げられませんでした。1年間、このチームでいろいろなことに挑戦できて私自身楽しかったですし、チームや応援してくれたファンの皆さんに感謝を伝えたいです」

今季もたくさんのご声援をありがとうございました。

以上

※ 来季の開幕戦は2019年4月20日～21日に鈴鹿サーキット(三重県鈴鹿市)で行われます。